



診察室より

小児科医 松下賢治

8月は、次々と台風の襲来がありました。世界的な海水温の上昇が原因と言われていますが、公共交通が乱れました。ただお盆を過ぎて、少し涼しくなってきたかなと感じています。

この時期昼間暑くても夕方5時過ぎは涼しく、風がある日は気持ちよく走れます。ところが今年は、昼間から夕方まで暑く汗が噴き出てくる状態で、熱中症ぎみになる人も増えています。昼間や夜間のクーラーの長時間使用で、のどを痛め風邪が治りにくい児も多く見かけました。夜間はできるだけ扇風機活用法で、汗を少しかく生活も目指しましょう。

外来では、のどの赤みを伴う風邪で発熱のみで受診、嘔吐・下痢などのウイルス性胃腸炎、体調を壊してじんましんが出たり、乳幼児では、発熱と咳き込みが強いRSウイルス感染症が増えています。水分が摂れなかったり、呼吸数が多かったりする時は入院を勧めることもあります。また、りんご病の児も増えています。

8/17~8/18は、福岡で47回目の小児アレルギー研究会があり参加してきました。ハムスターにかまれアナフィラキシーを起こしたり、カレー粉でアレルギー反応を起こしたケースがあり、ピーナツアレルギーの児も増えてきています。間違えて誤飲し、アレルギー反応を起こさないために、最小限の量から食べさせてみる経験、舌下免疫療法での有害事象と対処法、牛乳負荷テストの研究など積極的な研究など発表されていました。

喘息児での最近の生物製剤の評価、子どもにアレルギー表示を考えさせる体験、香川県での学校や保育園でのアレルギー対策なども参考になりました。アトピー性皮膚炎での汗の研究や日光の評価と保湿剤の活用など、日常診療にいかせる内容も多くありました。外来の場で、話していく予定です。

さて今年の8月は戦後74年、広島・長崎に原爆が投下された月であり、改めて戦争のことを振り返る月にしてみました。父から東京大空襲や満州での体験を聞いたことがあり、クリニックでも何回か戦争体験を聞いたことがありますが、再度認識を高めるために過去の戦争について記述してある本を読みました。テレビ番組も観るようにしましたが、NHKで8/12放送された < かくして自由は死せり、ある新聞との関連で > は、特に印象に残りました。国会が始まり、大正時代、自由民権運動など、個人の意見を出せた時代から戦争に突き進んだ時代、何が関わったのか、自由新聞が発行され、アジアで優位な立場を目指す立場、聖戦の名による戦争、韓国併合、満州での戦争へと進んだ背景について触れていました。

もう一つは、8/14に放送された < 2.26事件 新たに分かった資料 > で、陸軍と海軍の意見の違い、天皇の采配、想い、現代と比べ考えさせられた番組でした。自由に意見を出し合い、一人一人の生活が守られる生活が大事で、守る必要を改めて考えさせられました。韓国と日本の政府の意見の違い、元は過去の戦争に無反省の現政権、過去に韓国旅行したこともあり、その時も勉強しましたが、過去の歴史の勉強も続けていこうと思いました。

今鹿児島市メルヘン館では、< かこさとしの世界展 > があります。9月中旬まで、子どもたちに本物の科学の世界を伝えたい、今年なくなった絵本作家、おすすめです。

さらに、お知らせです。< 子どもの六法 > 光文社版、いじめや体罰などは犯罪で、法律では禁止されていること、子どもの自殺を減らすためにも、まず親が読み、伝えたい内容です。



アレルギーを持つ子の親の会からのお知らせ

小児科医に聞こう！食物アレルギー講座



お子さまの食物アレルギーで悩んでいませんか。
小児アレルギー研究会に於いての最新情報をふまえ、早期摂取の現状や負荷試験の取り組みなど小児科医がお話しします。
アレルギーに興味があり今後の参考にしたい方など、ぜひこの機会に参加してみませんか。

★参加申し込みや詳しいことにつきましては、鴨池生協クリニック小児科
TEL 252-1321 までお願い致します。 保育はありませんので、予めご了承ください。

「～食物アレルギーの歴史と取り組み～ 最近の食べて治すについて」

日時：10月5日（土） 14時～15時30分

場所：生協会館5階大会議室（鴨池新町5-8）

講師：小児科医 松下賢治

参加費： 無料



夏でも「冬の風邪」注意

小堀 勝充

子どもたちの風邪には「冬の風邪」「夏の風邪」というように季節による特徴がありました。しかし、近年は季節性が不明瞭になってきています。

先日、生後3カ月の赤ちゃんが風邪をひいたようだと言われ受診されました。発熱はなく、鼻汁・鼻づまりと咳が出ていました。母乳の飲みはいつもの半分程度になっていました。診察をしても、にこにこして機嫌も良く、のども胸の音も異常なしです。鼻水は透明で少しねばねばしていました。夏なのにまさかと思いつきながら鼻水の検査を実施すると、予想通りRSウイルスが陽性と出ました。

RSウイルス感染症は、乳幼児を中心に感染する呼吸器感染症です。秋から冬を中心に流行しますが、近年は夏から流行が始まるようになりました。

感染力が強く、幼稚園や保育園などの集団生活では感染の広がりに注意が必要です。症状は、鼻水と咳が中心ですが発熱することもあります。多くは風邪症状が少し長引くだけですが、1歳未満では時々咳がひどくなります。「ぜーぜー、ヒューヒュー」して睡眠障害や哺乳障害が出現し、細気管支炎や肺炎に進行することがあるので注意が必要です。

潜伏期間は4～6日程度で、発症後1週間程度で軽快します。特効薬はありません。風邪薬の内服や鼻汁吸引などの対症療法を行います。

咳やくしゃみで飛び散る飛沫（ひまつ）を吸い込む飛沫感染で感染します。手洗いやうがい、マスクの着用で予防します。

前述の3カ月の赤ちゃんには安全に内服できる風邪薬がありません。診断と予想される症状について説明しました。幸い気管支炎、肺炎に進行することなく数日で軽快しました。

(医療生協さいたま・熊谷生協病院長 小児科医師)



運動会に向けて練習が始まると、日中の暑い中たくさん体を動かし疲れやすいですので、夜は早めに就寝し、しっかり休息を取りましょう。

子育て班
「みみちゃんの会」のご案内

毎月1回親子で集まって、楽しく活動をしています。参加してみませんか。

9月19日（木）10時～12時

アクセサリー作りを行います。
場所は生協会館5階で、参加費は500円です。
10月は運動会とランチ会です。

<連絡先>
かごしま医療生協
健康まちづくり部
TEL260-3532 までお願い致します。(片平)



鹿児島市では、麻しん風しん混合ワクチンの接種歴が一度もない未成年者を対象に、任意予防接種として接種費用の全額助成を行っています。
(鹿児島市に住民登録のある方が対象になります。)

※下記対象者に実施する麻しん風しん混合ワクチンは、任意予防接種（保護者又は被接種者の希望により受ける予防接種）となりますので、接種を希望する方は、下記の説明をよく読んで、接種医と相談のうえ、接種を受けてください。

接種歴がある方にも予診票が送付されるケースがあります。母子手帳で必ず接種歴を確認してください。

	接種対象者	回数	接種期間
①	麻しん風しん混合ワクチンの接種歴が1度もない 7歳以上20歳未満の者（②を除く）	1回	令和元年7月1日～令和4年3月31日まで ※20歳の誕生日の前日まで
②	麻しん風しん混合ワクチンの接種歴が1度もない 平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれの者	1回	令和元年7月1日～ 令和2年3月31日まで

○接種料金 無料 ※接種対象外年齢や期間外の接種は、全額自己負担になります。

○「予診票」の提出がないと、接種料金が無料になりませんのでご注意ください。

○これまでに麻しん風しん混合ワクチンを接種されたことがある方は、今回の助成の対象になりません。

【予防接種に関するお問い合わせ先】 8:30～17:15（土曜、日曜日、祝日、年末年始を除く）

鹿児島市保健所 保健予防課 感染症対策係 TEL:099-803-7023 FAX:099-803-7026



9月9日は救急の日 子どもの誤飲と誤嚥／窒息の対処法

食物以外の物を誤って口から摂取することを誤飲（ごいん）といいます。誤嚥（ごえん）とは、食べ物が食道に入らずに気管の方に入ってしまうことです。肺の方まで入ってしまうと「誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）」を起こすことがあります。誤飲した物が腸から吸収されずに便中に排出されるか、または摘出する必要があるものを異物といいます。誤飲した物が腸から吸収されて毒性を発揮する場合を中毒と言います。

子どもの誤飲は、乳児に好発し3歳未満が90%をしめます。赤ちゃんは何でも口に運ぶので要注意。誤飲の多い時間帯は母親が家事に忙しい午前9時～11時台、午後6時～9時台です。誤飲する物はタバコや硬貨が最も多く、次いで医薬品、化粧品、洗剤、文具などで、約12%に嘔吐などの中毒症状または有害な兆候が見られています。タバコの約3分の2が致死量です。2cm以上飲み込んだ時はすぐ病院へ。

灯油、ガソリン、シンナー、マニキュア除光液などは、絶対に吐かせてはいけません。飲んだ疑いが少しでもあるようでしたら必ず受診しましょう。これは揮発性ガスを吸い込んで、化学性肺炎を起こす危険があるためです。飲んだ場合、最低でも48時間の観察が必要となります。

硬貨や小さなおもちゃ、ピアスなどの装飾品、ガラスや針などの尖ったものは、吐かせずに病院に行きましょう。ボタン電池や磁石を飲み込んでしまうと胃に穴があくことも。この場合も無理に吐かせずに受診しましょう。

ネズミ駆除薬、トイレ用洗剤、苛性ソーダ、アリアウジ駆除用の殺虫剤（クレゾール）、業務用漂白剤、花火、防虫剤（しょうのう）、除草剤、抗うつ薬、脱毛剤・除毛剤を飲んだ場合、緊急を要します。上記のものは絶対に吐かせてはいけません！

乳幼児は特にピーナツなどの誤嚥に要注意です。豆類は気管支の中で水分を吸収して大きくなり、気管支をふさいでしまいます。そのうえ、ピーナツに含まれている油成分が肺を刺激して肺炎を起こすと言われており、早急に取り出す必要があります。3歳までは与えないようにしてください。

中毒110番・電話サービス（財）日本中毒情報センター

化学物質（タバコ、家庭用品など）、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限定し情報提供しております。

■大阪中毒110番（365日 24時間対応）

一般市民専用電話：072-727-2499

■つくば中毒110番（365日 9～21時対応）

一般市民専用電話：029-852-9999

■タバコ誤飲事故専用電話（365日 24時間対応）

072-726-9922※テープによる一般市民向け情報提供

●小児救急電話相談 「#8000」番へダイヤル

平日・土曜日 19時～翌朝8時

日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）8時～翌朝8時

「#8000」番（又は099-254-1186）

携帯電話からも利用可能

※ダイヤル式電話・光電話・IP電話及び市外局番が

「0986」の地域の固定電話からは、「099-254-1186」

におかけください。

気道異物の対処法

子どもを大人の太もの上でうつぶせに乗せて、片方の手で顔を支え、頭を胸よりやや低い状態にします。もう片方の手の付け根で背中の中を何度も連続して強くたたきます。

窒息で苦しんでいる場合は、吐き出させないといけませんが、飲み込んだ場合には、無理に吐かせても有効でないだけでなく、吐かせた物が原因で窒息したり、胃に落ちた物が逆流して食道に引っかかり危険な場合もあり、現在では家庭で吐かせることは勧められていません。

誤えん・誤飲対処早見表：子育てサイト 教えて!ドクターより 佐久総合病院佐久医療センター・小児科医長 坂本昌彦氏監修

誤えん・誤飲対処早見表

※窒息で苦しんでいる場合（気道異物）は吐かせてください

吐かせない

同じものを持参

緊急度	飲んだもの・状態
救急車 119	<input type="checkbox"/> のどにものを詰まらせていそうな呼吸・様子 → 吐かせる <input type="checkbox"/> けいれん <input type="checkbox"/> ぐったりして呼びかけてもぼんやり
	● 灯油 ● ペンジン ● 除光液 ● 農薬 ● 殺虫剤 ● ネズミ駆除剤
自家用車で急いで受診	<input type="checkbox"/> 突然の咳き込み、咳の出現 <input type="checkbox"/> 声がかすれている <input type="checkbox"/> ゼーゼー・ヒューヒューした呼吸 <input type="checkbox"/> 吐く・下痢・腹痛などの症状
	● ボタン電池 できるだけ総合病院を受診 ● 鋭利な異物 ガラス・針・ヘアピン・カッターの刃など ● 磁石 同じものがあれば持参 ● 家庭用化学用品 トイレ用スタンプ洗剤・バック型液体洗剤 吸水性樹脂・水で膨らむビーズ 芳香剤・消臭剤・防虫剤・漂白剤 など
診療時間内	● たばこ 商品名、誤飲した量と内容 ● くすり 同じもの・お薬手帳もあれば持参
	● コインやおもちゃ等 よく誤飲しやすいもの ● 少量のインク、クレヨン、絵の具、粘土、化粧品（口紅、ファンデーション）、せっけん 心配な場合は電話などで相談の上受診

症状がなくても受診してください